

新規推薦地「祖母・傾・大崩」の概要について

1. 名称:

祖母・傾・大崩生物圏保存地域 (祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク)

2. 構成自治体:

大分県・大分県佐伯市・大分県竹田市・大分県豊後大野市
宮崎県・宮崎県延岡市・宮崎県高千穂町・宮崎県日之影町 (2県6市町)

3. 特徴等:

○特徴

- ・大分、宮崎両県に跨がる祖母・傾・大崩山系を中心に、これらを源流とする大野川水系、五ヶ瀬川水系流域の6市町をエリアとしている。
- ・祖母・傾・大崩山系は、九州最高峰級の山々からなる急峻な山岳地形と美しい渓谷を有し、イチガシなどの照葉樹林からブナなどの夏緑樹林までの幅広い植生とともに、ニホンカモシカやソボサンショウウオ、無斑アマゴなどの希少種も生息しているなど豊かな動植物相の有り様を限られた地域で見ることができる、極めて多様な生物種の宝庫である。
- ・複雑な地形・地質に加え、地域住民の持続的な自然資源の利活用や、活発な環境保全活動等により、多様な二次的自然環境が形成されており、貴重な動植物が生育・生息する生物多様性の高いスポットが点在している。
- ・地域共通の文化的背景である祖母山信仰や、神楽に代表される土地固有の多彩な民俗芸能が各地で継承されており、自然への畏敬の念が地域の文化として根付いている。

○面積

総面積 243,672ha

- ・核心地域 1,580ha
- ・緩衝地域 17,748ha
- ・移行地域 224,344ha

※ 核心地域と緩衝地域は、祖母傾国定公園や祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域に指定されており、適切な保護・保全が図られている。

※ 移行地域は、九州有数の林業地帯であり、農林業を生業として発展してきた歴史を持ち、現在も、気候条件や地形の複雑さを活かし、森林資源の幅広い利活用や様々な農産物生産により、二次的自然環境の持続的な利用が継続されている。